

2019年度 研究所事業報告書

研究所名	国際地域研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2019年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式Bに記述のうえ提出してください。

本研究所(国際地域研究所[以下 国地研])は、1989年の設立以降、国際関係学と地域研究の両分野において、先端的な研究活動をリードすることで、国内外の学術コミュニティに貢献しようと努めてきた。その大きな目標からみて、2015年までの到達点を、国地研の「発展第一ステージ」、2016年からの5年間を「発展第二ステージ」と位置づけている。この「第二ステージ」では、「国地研アイデンティティ」の創造と、その国内外への浸透を掲げて活動を進めてきた。国地研、あるいは立命館大学全体として豊富に知的蓄積がなされてきたのは、国際関係学分野においては「平和研究」であり、地域研究分野においては「アジア研究」である。この強みを生かし、さらに伸ばすことで、国地研を「平和研究」及び「アジア研究」の重要な研究拠点として、国内外に打ち出しすべく、2019年度も活動を進めた。具体的には、2つの重点プロジェクトを国際展開の牽引役として位置づけ、国内外に国地研のプレゼンスを発揮させることに務めた。同時に6つの研究所内プロジェクトを設置し、新規の萌芽的研究課題と、継続の研究課題の両方をバランスよく支援した。

その際、昨年度まで、やや独立して進めてきた平和研究の「紛争・平和構築研究プロジェクト」と、アジア研究の「中国強国化プロジェクト」という二つの重点プロジェクトをそれぞれしっかりと進めるとともに、両プロジェクト間の協働を深化させることも、2019年度は意識した。具体的には、「紛争・平和構築研究プロジェクト」を、アジアでの経験を踏まえた上で理論研究へと還元するプロジェクトへとアップグレードし、「中国強国化プロジェクト」を、中国の台頭が国際社会に与える影響を分析するプロジェクトへと発展させた。こうしたアップグレードにより、各プロジェクトにおける「平和研究」と「アジア研究」との融合を推し進めるとともに、両プロジェクト間の連携も強化した。例えば、2019年度土曜講座では、両プロジェクトの成果を融合させた「中国の「一带一路」構想と世界」という連続講座を開催し、高い評価を得た。この成果を書籍としてまとめる作業も開始している(ただし、2020年3月に予定されていた国際シンポジウムが、新型コロナウイルス蔓延を受けて中止となったため、やや計画は遅れている)。

また、若手による研究成果発信を促すためにも、研究所として、若手メンバーの研究指導にも力を入れた。若手中心の研究会、ワークショップを数多く企画し、そうした機会を利用して各プロジェクトメンバーが積極的に若手の研究指導を行った。その結果、若手メンバーによる論文が国際ジャーナルに複数掲載されるなどした。また、英語紀要において、特集号を組み、若手メンバーによる論文を中心に、上記プロジェクトの成果をまとめた形で発信することもできた。

以上の活動を踏まえた、研究所の2019年度の主要な成果は以下の通りである。重点プロジェクトの「紛争・平和構築研究」では、世界の紛争分析を中心に研究し、その成果は、アフガニスタンにおける平和構築に関する国際シンポジウムの主催、図書10点、論文25本、学会発表19回、メディア掲載や講演23回となった。また、上記の通り英語紀要における特集号も組んだ。同じく重点プロジェクトの「中国強国化と国際秩序」では、図書出版4点、論文15本、学会発表5回、メディア掲載や講演2回となった。

研究所内プロジェクトは、「日米中政治経済研究会」、「中国法・アジア法研究会」、「中国語圏地域人文学研究会」、「アフリカ研究会」、「アフガニスタン研究会」、そして新規の「平和主義研究会」が、それぞれ積極的な研究活動を行った。その成果は多岐に渡るため、ここでは紹介しないが、以下の研究業績欄を参照して頂ければ幸いである。

総合的に、研究成果については5ヵ年計画と照らしても順調に進捗している。しかしながら、研究成果をいかに外部資金の獲得につなげていくかは、研究所にとって引き続き残された大きな課題であり、特に中型・大型の外部資金の獲得に向けて、努力と工夫が今後も必要であると改めて思う次第である。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	足立研幾	国際関係学部	教授
研究所副所長	末近浩太	国際関係学部	教授
運営委員	中本悟	経済学部	教授
	本名純	国際関係学部	教授
	嶋田晴行	国際関係学部	教授
	岩田拓夫	国際関係学部	教授
	宮脇昇	政策科学部	教授
	守政毅	経営学部	教授
	小田美佐子	法学部	准教授
	廣野美和	グローバル教養学部	准教授
	宇野木洋	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	藪中三十二	国際関係学部	客員教授
	文京洙	国際関係学部	特任教授
	石原直紀	国際関係学部	特任教授
	高須幸雄	国際関係学部	特任教授
	君島東彦	国際関係学部	教授
	中戸祐夫	国際関係学部	教授
	安高啓朗	国際関係学部	准教授
	森下明子	国際関係学部	准教授
	福海さやか	国際関係学部	准教授
	鳥山純子	国際関係学部	准教授
	植松健一	法学部	教授
	馬場多聞	文学部	准教授
	陳晋	経営学部	特別任用教授
	竇少杰	経営学部	専任講師
	上野隆三	文学部	教授
	三須祐介	文学部	准教授
	宮内肇	文学部	准教授
	廣澤裕介	文学部	准教授
	山本一	文学部	専任講師
	斎藤敏康	経済学部	特任教授
	絹川浩敏	経営学部	教授
	角本和理	政策科学部	准教授
	板木雅彦	国際関係学部	教授
	中川涼司	国際関係学部	教授

	山崎文徳	経営学部	教授
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	菊地俊介	BKC社系研究機構 社会システム研究所 客員研究員
	② リサーチアシスタント		
③ 大学院生	Radesa Budipramono	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Khairul Hasni	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Sugit Arjon	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Rika Kurniaty	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Ivanova Polina	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Malai Andrei	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Jang Youngjoo	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Lee Jaiyong	国際関係研究科	博士課程後期課程
	山上亜紗美	政策科学研究科	博士課程後期課程
	Migita Valerie Malia	国際関係研究科	博士課程前期課程
	飯澤さやか	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Youssef Randdaoui	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Illaria Canali	国際関係研究科	博士課程前期課程
	塚越匠	国際関係研究科	博士課程前期課程
	楊鵬超 (YANG Pengzhao)	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Mina Tadrous	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Amar Rai	国際関係研究科	博士課程前期課程
	劉聚	国際関係研究科	博士課程前期課程
	謝川	国際関係研究科	博士課程前期課程
	赵是歌	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Fred Hendricks III	国際関係研究科	博士課程前期課程
	董峰(DONG Feng)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	趙昊天 (ZHAO Haotian)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	胡若蘭(HU Ruolan)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	田燁(TIAN Yi)	国際関係研究科	博士課程後期課程
	沈亜楠 (SHEN Yanan)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	劉政中 (LIU Zhengzhong)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	高爽(Gao Shuang)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	張安煜 (ZHANG Anyu)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	李敬(LI Jing)	国際関係研究科	博士課程前期課程
朱軒宥 (ZHU Xuantiing)	国際関係研究科	博士課程前期課程	
朱省志	法学研究科	博士課程後期課程	

④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	黒田彩加	衣笠総合研究機構	学振 PD
	池端落子	衣笠総合研究機構	学振 PD
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	申鉉昨	国際関係学部	授業担当講師
	円城由美子	衣笠総合研究機構	客員研究員
	城山拓也	言語教育センター	外国語嘱託講師
	阿部沙織	言語教育センター	外国語嘱託講師
	加部 勇一郎	言語教育センター	外国語嘱託講師
	秋山肇	国際関係学部	嘱託講師
	藤田明史	国際関係学部	非常勤講師
	山根和代	国際関係学部	授業担当講師
	シン・ヒョンオ	国際関係学部	授業担当講師
客員協力研究員	魏聰哲	中華経済研究院第3研究所	副研究員
	韓金江	岐阜経済大学	教授
	鈴木章悟	マンチェスター大学	准教授
	近藤信一	岩手県立大学	准教授
	潘燕萍	深圳大学経営学部	講師
	南玉瓊	アジア人材研究所	非常勤講師
	楊秋麗	同志社大学	嘱託講師
その他の学外者	Amitav Acharya	American University	教授
	白石隆	熊本県立大学	理事長
	村上友章	流通科学大学	准教授
	Lam Peng Er	National University of Singapore	教授
	Mely Cabellero Anthony	Nanyang Technological University	教授
	Ukrist Pasmanand	Chulalongkorn University	教授
	Shofwan Albana C	University of Indonesia	講師
	Agus Trihartono	Jember University	講師
	クロス京子	京都産業大学	准教授
	岡野英之	近畿大学	助教
	Adhi Priamarizki	未定	
	長有紀枝	立教大学	教授
	石川幸子	国際協力機構	国際協力専門員
	河知延	近畿大学産業理工学部	教授
	苑志佳	立正大学	教授
	方素梅	中国社会科学院	教授
	徐林卉	上海社会科学院	副研究員
	向渝	香川大学	准教授
	Nick Hambridge	ハーバード大学	シニア・アフィリエイト

	中川正之	文学部	客員教授
	鳥谷まゆみ	北九州市立大学	准教授
	高橋基樹	京都大学	教授
	ウ・ユシヤン	ヴィットウォーターズランド大学	ポスドクフェロー
	キム・ヒョスク	関西外語大学	准教授
	アパラジタ・ビスワス	ムンバイ大学	名誉教授
	パン・フアチン	北京大学	教授
	アジャイ・デュベイ	ジャワハルラル・ネルー大学	教授
	チャン・ヨンキュー	韓国外国語大学	教授
	ペドロ・カルバーユ	関西大学	教授
	スカーレット・コーネリセン	ステレンボシュ大学	教授
	朱曄	静岡大学地域法実務実践センター	教授
	平賀緑	京都大学大学院経済学研究科	博士課程後期課程
	松嶋紀美子	大阪市大創造都市研究科	博士課程後期課程
	岡田啓輔	立命館大学国際関係研究科	博士課程後期課程
	藁谷達至	立命館大学大学院経済学研究科	博士課程後期課程
	李敬	立命館大学国際関係研究科	博士課程後期課程
	井出文紀	近畿大学経営学部	准教授
	小山大介	宮崎大学テニュアトラック推進機構	准教授
	松村博行	岡山理科大学経営学部	准教授
	井上博	阪南大学流通学部	教授
	森原康仁	三重大学人文学部	准教授
	櫻井公人	立教大学経済学部	教授
	田村太一	流通経済大学	准教授
	千葉典	神戸市立大学外国語学部	教授
	近藤信一	岩手県立大学総合政策学部	准教授
	石田周	愛知大学地域政策学部	助教
	松本俊哉	鹿児島国際大学	准教授
	内藤正典	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科	教授
	高島宏明	京都大学大学院総合生存学館	特定教授
	林裕	福岡大学商学部	准教授
	青木健太	お茶の水大学	助教
	小杉泰	アジア・日本研究所	所長
	山尾大	九州大学	准教授
	吉川卓郎	立命館アジア太平洋大学	准教授
	佐藤麻理恵	京都大学	助教

	田村あずみ	滋賀大学	講師
	野島大輔	千里国際学園	教諭
研究所・センター構成員 計 144 名 (うち学内の若手研究者 計 35 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点) また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Jun Honna	Indonesia: Dominance, Twilights, and Legacies of Power	共著	2019年10月	Armies and Societies in Southeast Asia (Chian Mai: Silkworm Books)	Volker Grabowsky and Frederik Rettig	
2	Takuo Iwata	New Asian Approaches to Africa	編著	2019年9月	Vernon Press	Takuo Iwata (Ed.)	全296ページ
3	苑志佳	中国年鑑2019「IT産業」	共著	2019年5月	明石書店		pp.170~172
4	宮脇昇	争点化の新しい方法論	単著	2019年5月	「国際関係の争点化」志學社		pp.7-26
5	宮脇昇	大学の学びを変えるゲーミング	共著	2020年1月	晃洋書房	近藤敦・豊田祐輔・吉永潤	pp.133-150、pp.198-205
6	宮脇昇	資源地政学	共著	2020年3月	法律文化社	稲垣文昭・玉井良尚	pp.1-27
7	玉井良尚	ゲーミングで水紛争を学ぶ	共著	2020年1月	大学の学びを変えるゲーミング 晃洋書房	近藤敦・豊田祐輔・吉永潤・宮脇昇	pp.126-148
8	朱曄	中国における生命侵害の賠償をめぐる一わゆる「死亡賠償」を中心に	単著	2020年1月	勁草書房	沖野真己他編『比較民法学の将来像』	pp.667-687
9	小杉泰	ムハンマドのことば——ハディース	単著	2019年11月	岩波書店		
10	松田正彦	タバコ	共著	2019年10月	東南アジア文化事典 丸善出版	信田敏宏、綾部真雄、岩井美佐紀、加藤剛、土佐桂子	
11	清嶋友喜	米国外交の争点形成モデル—規範形成型と脅威形成型の非国家主体	共著	2019年5月	『国際関係学叢書第5巻 国際関係の争点』志學社	宮脇昇	pp.275-299。
12	中本 悟	ウォール・ストリート支配の政治経済学	共編著	2020年2月	文真堂	大橋 陽	PP.15-50.
13	田村太一	アメリカン・ドリームを終焉—所得・資産格差と中間層の崩壊—		2020年2月	『ウォール・ストリート支配の政治経済学』文真堂	大橋陽・中本 悟共編	pp.95-114
14	白戸圭一	アフリカを見る アフリカから見る	単著	2019年8月	ちくま新書		
15	未近浩太	シリア紛争の「宗派化」:レバノン・ヒズブッラーの軍事介入の論理と実践	共著	2019年4月	晃洋書房、現代中東の宗派問題:政治対立の「宗派化」と「新冷戦」(シリーズ 転換期の国際政治10)	酒井啓子	pp.129-149
16	廣野美和	積極化する国連への関与	共著	2020年3月	ミネルヴァ書房「よくわかる現代中国政治」	川島真・小嶋華津子(編)	pp.188-189
17	櫻井公人	深く学べる国際金融:持続可能性と未来像を問う		2020年3月	法律文化社	奥田宏司・代田純	
18	竇少杰	アメリバ経営の中国企業への移転可能性と課題	共著	2020年3月	ミネルヴァ書房「雇用関係の制度分析—職場を質的に科学する—」	樋口純平・西村純(編著)	pp.265-285

19	寶少杰	ファミリービジネスと持続可能な経営	共著	2020年3月	同友館「持続可能な経営と中小企業—100年経営・社会的経営・SDGs経営—」	関智宏・同志社大学 中小企業マネジメント 研究センター編	pp. 37-62
----	-----	-------------------	----	---------	--	------------------------------------	-----------

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Adhi Priamarizk	Civil Military Relations in Southeast Asia. By Aurel Croissant. Cambridge: Cambridge University Press, 2018	単著	2019年8月	Contemporary Southeast Asia, 41, No.2		pp. 323-325	有
2	Andrei Yamamoto	Unpacking the Ontological Foundation of North Korea's Ambivalent Foreign Policy: Brinkmanship as Rationality	単著	2019年7月	Asian Politics and Policy,		pp. 356-379	有
3	Andrei Yamamoto	Quo Vadis Human Security? From Narrowing and Broadening to Biopolitics	単著	2019年11月	Ritsumeikan Annual Review of International Studies Vol. 18		pp.119-137	有
4	Andrei Yamamoto	Critical Human Security Studies and the Emancipation from Stress: The UN in Cambodia (1991-1993)	単著	2020年3月	Ritsumeikan International Affairs Vol.17		pp.65-92	有
5	Hideyuki Okano	Non-military Transnational Networks of Armed Group: RCSS/SSA in Burma and Shan NGOs in Thailand	単著	2020年1月	Journal of Human Security Studies, Vol. 9 No. 2,		pp.92-	有
6	Kenki Adachi	Consequence of Norm Localization: Achievements and Challenges of Localized Human Security in Southeast Asia	単著	2020年3月	Ritsumeikan International Affairs Vol.17		pp.1-18	無
7	Kenki Adachi	Human Security Challenges After Guns Fall Silent	共著	2020年3月	Ritsumeikan International Affairs	Lin Lin Khine	pp.93-104	無
8	Miwa Hirono	Impact of China's Decision-making Processes on International Cooperation: Cases of Peacekeeping and Humanitarian Assistance/Disaster Relief	単著	2019年11月	Australian Journal of International Affairs, 74 (1)		pp. 54-71	有
9	Polina Ivanova	International student satisfaction at English-medium graduate programs in Japan	共著	2020年1月	Higher Education, Springer	Mahboubeh Rakhshandehroo	pp.1-16	有
10	Radesa Guntur Budipramono	Compromising Human Security: The Securitization of HIV/AIDS Response and Indonesia's	単著	2020年3月	Ritsumeikan International Affairs, Vol.17		pp.19-42	有

		Transition from Vertical to Horizontal Approach						
11	Sugit Sanjaya Arjon	Identity Politics of Radical Muslim Organization in Democratised Indonesia: Transformoin and Continuity in Laskar Jihad?	単著	2020年3月	Ritsumeikan International Affairs Vol.17		pp.105-120	有
12	Takuo Iwata	Political Satire and Laughter in Africa.	単著	2020年1月	Langaa	In Yaw Ofusu-Kusi and Matsuda Motoji. (Eds.). The Challenge of Africa Potentials - Conviviality, Informality and Futurity.	PP. 143-168	有
13	クロス京子	鶴田綾著『ジェノサイド再考-歴史の中のルワンダ』	単著	2019年9月	国際安全保障 第47巻2号		pp.119-123	無
14	苑志佳	中国企業による対欧直接投資の特徴と行方	単著	2019年5月	一般財団法人霞山会「東亜」2019年5月号、No.623		pp.100-107	無
15	苑志佳	「自然型資産」獲得の対外直接投資の要因分析——中国企業による対オーストラリア直接投資を中心に——	単著	2019年7月	立正大学「経済学季報」第69巻、第1号		pp.1-31	無
16	苑志佳	中国経済転換期における中央と地方関係に関する再考	単著	2019年10月	立正大学「経済学季報」第69巻、第2号		pp.1-34	無
17	苑志佳	南アフリカにおける日系自動車部品ハイブリッド工場—HESTOの事例を中心に—	共著	2019年10月	法政大学イノベーションマネジメント研究センター・ワーキング・ペーパーシリーズ「アフリカにおける日本企業の事例研究 I」No.213	山崎克雄、公文博・糸久正人編著	オンラインジャーナル	無
18	苑志佳	米中貿易戦争の深層を考える	単著	2019年11月	農業・農協研究所「農業・農協問題研究」農業・農協問題研究所報第70号		pp.16-28	無
19	苑志佳	米中貿易戦争の表層と深層を考える—一次のヘゲモニーの交代はありうるか—	単著	2019年11月	日本華人教授会議・NPO 中日学術交流センター「東アジア論壇」第一五号、特集「一帯一路構想と日中協力のあり方」		pp.42-51	無
20	岡野英之	民主的で官僚的なパトロン＝クライアント関係—内戦後シエラレオネにおけるバイクタクシー業と交通秩序—	単著	2019年6月	文化人類学 84巻1号		pp.19-38	有
21	岡野英之	タイにおけるミャンマー避難民・移民支援と武装勢力—シャン人武装勢力 RCSS/SSA と隣国で活動する NGO/CSO—	単著	2020年3月	難民研究ジャーナル 9号		未定	有
22	加部勇一郎	連環画『台湾剣客』(1983)を読む—1964年の東京オリンピックと台中間の物語	単著	2020年3月	連環画研究会、『連環画研究』、第9号		pp.67-84	無
23	角本和理	コメント: 吉田邦彦『日	共著	2019年8月	北大法学論集 70巻2号		pp. 173～	無

		本民法学の近時の変貌の回顧と将来の方途：民法理論研究を求めて』					204	
24	角本和理	サイバー社会における私法上のプライバシー・自己決定の保護に関する一考察	単著	2019年10月	私法81号		pp.136～143	有
25	菊地俊介	日本占領下華北におけるスポーツイベント	単著	2020年3月	中国現代史研究会、『現代中国研究』、第44号		pp.63-86	有
26	宮脇昇	公共政策とトラスト：国際的及び国内的課題	単著	2019年12月	公共政策研究19号		pp.14-21	無
27	宮内肇	『国民政府建国大綱』実現への模索——1930年代の広東省における地方自治論	単著	2019年9月	孫文研究会、『孫文研究』、第64号		pp.1-17	有
28	宮内肇	近代中国における自治と宗族——一九二〇年代・三〇年代の広東省台山県の事例研究	単著	2020年3月	立命館人文学会、『立命館文学』、第667号		pp.79-93	無
29	君島東彦	憲法平和主義は世界秩序研究を必要とする	単著	2020年1月	政治経済研究所、『政経研究時報』No.22-3		PP.13～17	無
30	三須祐介	『秋海棠』から『紅伶涙』へ：近現代中国文芸作品における男旦と“男性性”をめぐる	単著	2020年3月	立命館人文学会、『立命館文学』、第667号		pp.219-234	無
31	三須祐介	戦後台湾文学は植民地時代をどのように描いたか：鄭清文の小説作品を例に	単著	2020年3月	『植民地教育史研究年報』、第22号		pp.33-50	無
32	山本一	清代、督撫による地方官人事からみる王朝統治の一側面	単著	2019年7月	史学研究会、『史林』、第102巻第4号		pp.36-68	有
33	山本一	清末の幕僚人事からみる地方行政——張之洞の幕僚を中心に	単著	2020年3月	立命館人文学会、『立命館文学』、第667号		pp.94-107	無
34	朱省志	中国民事訴訟法における当事者の地位について	単著	2019年6月	立命館法学383号		pp.362～397	無
35	朱省志	日中民事訴訟手続の基本構造の比較	単著	2019年8月	立命館法学384号		pp.296～321	無
36	小杉泰	「イスラームにおける「スンナ」の多義性とハディースとの相関性——ハディース学および法源学から見た位置づけ——」	単著	2020年3月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター『イスラーム世界研究』第13巻		pp.108-129	
37	小田美佐子	中国民法各則の構想	翻訳	2019年8月	静岡法務雑誌11号	孫憲忠	pp.375～384	無
38	松田正彦	東南アジアの在来農業と近代技術と「在地の技術」	単著	2020年3月	熱帯農業研究12(1)		pp.37-40	無
39	城山拓也	プロパガンダと装飾芸術——張光宇『西遊漫記』をめぐる	単著	2020年3月	勉誠出版、『アジア遊学 移動するメディアとプロパガンダ』		pp.94-112	無
40	城山拓也	誰のために尽くすのか？—「狂人日記」と「非攻」を読む	単著	2020年3月	立命館人文学会、『立命館文学』、第667号		頁数不明	無
41	城山拓也	男から父へ—「傷逝」と「孤独者」を読む	単著	2020年3月	立命館人文学会、『立命館文学』、第667号		頁数不明	無
42	森原康仁	垂直分裂と垂直再統合——IT/エレクトロニクス産業における現	単著	2019年4月	京都大学経済学会編『経済論叢』193(2)		PP.157-179	

		代大量生産体制の課題						
43	馬場多聞	乳香のはなし	単著	2020年1月	一般財団法人中東協力研究センター『中東協力センターニュース』44(10)		pp. 35-38	
44	馬場多聞	13世紀のアデン港課税目録における東アフリカの輸出品	単著	2020年3月	立命館史学会『立命館史学』		pp. 73-97	
45	白戸圭一	対アフリカ投資の動向と日本	単著	2019年7月	SRID ジャーナル 第17号			有
46	白戸圭一	日本企業のアフリカ・ビジネス:その課題と可能性	単著	2020年2月	世界経済評論3・4月号(2020年第64巻2号)		pp. 71-80	無
47	本名純	大統領選挙特集(2) 2019年選挙から考えるインドネシア政治の変容	単著	2019年4月	『月刊インドネシア』2019年4月号		pp.7-12	無
48	本名純	2019年大統領選挙で何が起きたか:分断と凝集の政治ベクトル	単著	2019年5月	IDE スクエア 日本貿易振興機構アジア経済研究所		pp.1-6	無
49	本名純	大統領選挙特集～講演録 2019年大統領選挙の分析と今後の政治展望	単著	2019年5月	月刊インドネシア 日本インドネシア協会		pp.2-14	無
50	本名純	ポスト大統領選挙のインドネシア政治の展望	単著	2019年6月	月刊インドネシア		pp.9-11	無
51	末近浩太	ヒズブッラーとイラン:1980年代初頭の中東政治の構造変容	単著	2019年春	『季刊アラブ』第167号		pp. 9-11	
52	末近浩太	「全面戦争は望まないが対立は続ける」イランとアメリカの複雑な関係	単著	2020年1月	「現代ビジネス」講談社 https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69720			
53	末近浩太	「中東世論調査(トルコのシリア難民2019)」単純集計報告書	共著	2020年1月	CMEPS-J Report No.51 https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2020/01/cmeps-j_report_51.pdf	今井宏平・高岡豊・浜中新吾・錦田愛子・山尾大・溝淵正季・青山弘之	pp. 42	
54	末近浩太	「レバノン:政治改革への一進一退」	単著	2020年1月	『中東動向分析』vol.18, No.9		pp. 27-34	
55	楊秋麗	遼寧省経済の新方向—2019年8月大連・丹東訪問を踏まえて	共著	2020年3月	「社会システム研究」第40号	松野周治・曹瑞林	pp.109-129	無
56	廣澤裕介	白話小説『蘇知県羅衫再合』から崑曲『羅衫記伝奇』へ	単著	2019年12月	立命館人文学会、『立命館文学』、第664号		pp.392-403	無
57	廣澤裕介	『三国志平話』巻上の文字テキスト 絵解きを語った人、記した人、出版した人	単著	2020年3月	立命館人文学会、『立命館文学』、第667号		pp.176-192	無
58	竇少杰	稲盛和夫氏の「有終の美」:稲盛和夫と盛和塾(稲盛和夫的“有終之美”):稲盛和夫と盛和塾)	単著	2019年4月	「家族企業」		pp.46, 48-52	無
59	竇少杰	海天堂の生存哲学(海天堂的生存哲学)	単著	2019年5月	「家族企業」		pp.47, 38-43	無
60	竇少杰	ゴミ分別の背後にある「5S法則」(*“垃圾分類”背後の5S法則)	単著	2019年8月	「家族企業」		pp.50, 115-118	無
61	竇少杰	世界最古企業金剛組の2006年(世界最古老企業金剛組的2006年)	単著	2019年9月	「家族企業」		pp.51, 71-79	無

62	竇少杰	金剛組の回帰と再建 (金剛組的回帰与重建)	单著	2019年10月	「家族企業」		pp.52, 75-80	無
63	竇少杰	”常”と”変”の知恵(”常”与”变”的智慧)	单著	2020年1月	「家族企業」		pp. 55, 35-41	無
64	竇少杰	日本洛中高岡屋の百年経営とイノベーション(上篇)(日本洛中高岡屋の百年経営与創新・上)	单著	2020年3月	「家族企業」		pp. 56, 78-86	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Adhi Priamarizki	Status Quo by Other Means: The Military Involvement in Domestic Security in Indonesia, Myanmar, and Thailand in the Age of Democracy	2019年7月	Association for 2019 Asian Studies (AAS) Conference, Bangkok	
2	Andrei Yamamoto	'Know Your Proper Place': Orientalizing North Korea in American and Chinese Non-Proliferation Discourses	2019年7月	International Studies Association (ISA) Asia-Pacific Conference, Singapore	
3	Polina Ivanov	Partnership in Higher Education: The Third Sector's Role in the Internationalization of Japanese Universities	2019年4月	Education for Sustainability, Comparative and International Education Society (CIES)	
4	Polina Ivanova	Social Capital Generation through Interaction between Civil Society Organizations and International Students in Japan: Qualitative Case Study in the Kansai Area”, Education for Sustainability	2019年4月	Comparative and International Education Society (CIES) San Francisco	
5	Radesa Guntur Budipramono	Beyond EPA: Migration of Foreign Health Workers Amidst Japan's Immigration Reform	2019年7月	13th Postgraduate Forum on Health System & Policy Gajah Mada University, Yogyakarta, Indonesia	
6	Radesa Guntur Budipramono	The Political Economy of 'The End of AIDS' Discourse	2019年11月	4th International Symposium on Health Research, Prime Plaza Hotel, Sanur, Bali, Indonesia	
7	Radesa Guntur Budipramono	Contemporary Governance of HIV/AIDS Response: A Cautionary Tale from Indonesia	2019年12月	17th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	
8	クロス京子	過去との決別なきフィリピン二つのアキノ政権における移行期正義の挫折	2019年6月	日本平和学会2019年度春季研究大会、自由論題部会(福島大学)	
9	クロス京子	Hybridity in Community Policing in Timor-Leste	2019年9月	Reconstructing the Architecture of International Peacebuilding, Waseda University	
10	クロス京子	Creating hybridity in peacebuilding: A case of Timor-Leste's community	2019年11月	A Conference to Commemorate the 10th Anniversary of the Founding of the National Centre for Peace and Conflict Studies: Peace in Aotearoa New Zealand: Past, present, future, University of Otago	
11	クロス京子	フィリピンの超法規的殺人は許容されるのかー民主主義後退期の国際社会の対応、セッションB4「21世紀の人間の安全保障」の課題ー東南アジアを事例として	2019年11月	国際開発学会・人間の安全保障学会2019年度共催大会、於東京大学駒場キャンパス	
12	クロス京子	移行期正義概念・制度発達におけるNGOの役割ー人間の安全保障視座からの批判的考察	2019年12月	国際安全保障学会2019年度年次大会、同志社大学	
13	阿部沙織	中国現当代文学研究在日本 70年来的轉變和新趨向	2019年9月	第8回世界中国学論壇、上海社会科学院	

14	阿部沙織	華人女性作家の書く「母親」と「華人性」から読むアイデンティティ・ポリティクス—徳齡・凌叔華・エミ・タンを一例に	2019年10月	日本現代中国学会第69回全国学術大会、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス	林麗婷、鄭洲 【企画発表】「20世紀華人女性作家の自伝体作品を読む—恋愛・漂泊・アイデンティティ」
15	苑志佳	米中貿易戦争の深層—ヘゲモニーはどこへ	2019年6月	農農研総会・特別講演会「米中対立問題」新宿農協会館 8階大会議室	
16	苑志佳	現在の中国経済をどう捉えるか—発展パラダイムの転換と課題—	2019年7月	政治経済学・経済史学会(旧土地制度史学会)フォーラム、立正大学 94A 教室	
17	苑志佳	米中貿易戦争の表層と深層を考える—次のヘゲモニーの交代はありうるか—	2019年7月	日本華人教授会議主催「週末公開講座」立命館大学東京キャンパス、丸の内サピアタワー 8F	
18	苑志佳	「キャッチアップ指向型イノベーション」:後発者による先発者への追い越しパターン—中国の産業発展からのヒント—	2019年12月	産業学会東部部会、立正大学品川校舎 11 号館第6会議室	
19	岡野英之	隣国が支える武装勢力—「シヤン州復興委員会/シヤン州軍南部」(RCSS/SSA)とタイのシヤン人コミュニティー	2019年5月	ビルマ研究会 2019 年度研究大会、津田塾大学	
20	岡野英之	エボラ出血熱をめぐる人々の経験—首都フリータウンを事例に—	2019年5月	日本アフリカ学会第56回学術大会、京都精華大学	
21	岡野英之	Bridging between the Governmental Policies and Local Measures: Patronage Network of Political Elites in the Ebola Epidemic in Sierra Leone	2019年6月	the 8th European Conference on African Studies (ECAS 2019), University of Edinburgh, Edinburgh	
22	岡野英之	隣国が支えるナショナリズム—タイ=ミャンマーをまたぐシヤン人の言説空間を支えるもの—	2019年6月	日本文化人類学会 2019 年度研究大会、東北大学	
23	岡野英之	タイに寄り添うナショナリズム—シヤン人移民と武装勢力 RCSS/SSA—	2019年11月	第28回タイ学会定例研究会・大阪大学大学院言語文化研究科タイ語部会、大阪大学	
24	加部勇一郎	三毛と20世紀の中国	2019年5月	2019年度第1回中国語圏地域人文学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
25	角本和理	ロボット型検索エンジンと私法上のプライバシー — 違法性判断における『被侵害権益優越の明白性』に着目して(最三小決平成29年1月31日民集71巻1号63頁)	2019年2月	末川民法研究会 立命館大学朱雀キャンパス	
26	岩田拓夫	Evolution of Comedy in Africa (l'Evolution de l'humour en Afrique)	2019年10月	Université Félix Houphouët-Boigny	
27	菊地俊介	日本占領下北京における新民会暑期青年団の青年像と教官像	2019年6月	日本現代中国学会関西部会大会、大阪府・立命館大学大阪いばらきキャンパス	
28	宮脇昇	国際合意の履行と破約—国際政治学の観点から	2019年9月	国際法学会 於 静岡県国会会議場	
29	宮脇昇	地域対話におけるモンゴルの役割 欧州の経験から	2019年12月	鹿児島大学島嶼研シンポジウム 於 鹿児島大学	
30	宮内肇	五四時代の宗族自我改革論:以1920年代広東五邑地区為例	2019年5月	「五四運動100周年」国際学術研討会、台湾中央研究院	
31	黒田彩加	『現代のムスリム』誌にみるイスラーム改革思想の一展開—エジプト知識人の活動と「対話」をめぐる言論空間の形成	2019年5月	日本中東学会第35回年次大会・企画/パネルセッション「メデイアとイスラーム/知の連環」、秋田大学	
32	黒田彩加	“The Voices of the Silent Muslim Majority: A Study of the Role of Moderate Islamic Thinkers”	2019年7月	第7回立命館大学 AJI Frontier セミナー、立命館大学	
33	黒田彩加	“Moderate Islam Revisited: Voices for Modern Islamic Governances and Civil Society after the Arab Spring”	2019年8月	Rethinking Contemporary Islam (東文研セミナー)、東京大学	
34	黒田彩加	ムスリム知識人による反テロリズム言論	2019年9月	日本宗教学会第78回学術大	

		と『現実理解の法学』		会、帝京科学大学	
35	黒田彩加	“Analyzing Islam and Democracy in the Post-Arab Spring Era: An Egyptian Islamic Thinker’s Concept of Islamic Civilization”	2019年10月	10th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019), Institute of Islam Hadhari, The National University of Malaysia	
36	黒田彩加	アメリカ・ムスリム知識人による過激派批判と国際政治の動向——「アラブの春」以降のイスラーム思想のゆくえ	2020年1月	シンポジウム「現代イスラーム世界を眺望する—研究の最前線」、立命館大学	
37	三須祐介	台湾におけるクアア(酷児)と「同志文学」	2019年12月	日本比較文学会中部・関西支部合同大会(日本比較文学会第47回中部大会)、愛知淑徳大学	
38	山本一	清代の官僚名簿とそれが結ぶ近代世界—地方官人事制度の運用実態、および国外での利用—	2019年5月	2019年度第1回中国語圏地域人文学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
39	山本一	Aerial Surveys and Geographic Information in Modern China	2019年7月	The 29th International Cartographic Conference、プラザ平成	
40	山本一	黎貴悼の袞冕調査及其国際禮制上の意義	2019年8月	2019年中央研究院明清研究国際學術研討会、台北中央研究院	辻高広
41	守政毅	「一帯一路構想」下における華人ネットワークの拡張 -第14回世界華商大会をめぐって-	2019年12月	九州経済学会第69回大会	
42	守政毅	一帯一路におけるアジアの華人ネットワーク組織が果たす役割:アジアの中華総商會と世界華商大会を事例に	2020年3月	立命館大学国際地域研究所「一帯一路」研究会	
43	小杉泰	シャリーアとイスラーム法学の体系化過程とその法源学な構造をめぐって:今日のイスラーム法復興と主流化・過激化の解析へ向けて	2019年6月	立命館大学アジア・日本研究所(大阪いばらきキャンパス)	
44	小杉泰	"Hadith Studies Renewal Through Informatics and Resurgent Islamic Jurisprudence: How Can They Contribute to Contemporary Islamic Economic Thought?"	2019年9月	13th Kyoto-Durham International Workshop Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics and Finance, Kyoto University	
45	小杉泰	"Towards a Trialogue between Civilizations: Asian and Japanese Engagement with the Islamic World"	2019年9月	International Conference of “Inter-Civilizational Dialogue”Fundación Tres Culturas,Sevilla,Spain	
46	小杉泰	"A Success Brings More Challenges: Next Steps in Islamic Economic Studies and Resurgent Islamic Jurisprudence"	2019年10月	10th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019), Bangi, Malaysia	
47	小杉泰	研究という人生の喜び:中東・イスラーム研究の沃野から	2019年11月	立命館大学中東・イスラーム研究センター(CMEIS)設置記念講演会「新時代の中東・イスラーム研究を拓く:国際研究教育拠点設置の意義と抱負」	
48	小杉泰	宗教をめぐる新しい布置図とイスラーム法源学の復権	2020年1月	立命館大学アジア・日本研究所、中東・イスラーム研究センター他、共催シンポジウム「現代イスラーム世界を眺望する—研究の最前線—」	
49	小杉泰	"The Pursuit of Islamic Economic Studies in Japan and in the Global Society: Objectives and Strategies for Knowledge Generation"	2020年2月	International Workshop on Waqf Revitalization, Ritsumeikan University	
50	小杉泰	"The Islamic Revival, Islamic Economic Studies, and Halal Studies:Research Strategies and Prospects in Japan"	2020年2月	International Workshop on the Impact of Finance in Islamic Tourism, Kyoto University	
51	松村博行	エマージング技術の管理手法の模索:米国を事例に	2019年12月	国際安全保障学会2019年年度大会	
52	松村博行	米中ハイテク摩擦を巡る一考察—米国の対内投資規制および輸出規制の視	2020年1月	日本国際経済学会2019年度第3回関西支部研究会	

		点から			
53	城山拓也	民国期中国の漫画——誕生と展開	2019年6月	2019年度北京大学・立命館大学連携講座、立命館大学衣笠キャンパス	
54	城山拓也	日本における中国モダニズムの研究	2019年7月	東アジアモダニズム研究会、九州大学	
55	城山拓也	1940年代中国漫画的变化—以葉浅予『打箭炉日記』為例	2019年10月	国際学術検討会「戦後中日芸術交渉—継承と展開」、清華大学	
56	城山拓也	日中戦争期における葉浅予の宣伝工作	2020年1月	20世紀メディア研究所第134回研究会、早稲田大学	
57	清嶋友喜	「米国における『紛争当事国の内政問題』の争点化—コソボ解放軍(KLA)と米国内アルバニア系団体の連携に着目して—」	2019年5月	グローバル・ガバナンス学会、神戸大学	
58	足立研幾	軍縮をもたらした世界、軍縮学会の10年	2019年4月	軍縮学会、於拓殖大学	
59	足立研幾	核不拡散ガバナンスの行方—規範の観点から	2019年5月	グローバル・ガバナンス学会、部会6:核不拡散ガバナンスの現在、於神戸大学	
60	足立研幾	『人間の安全保障』のローカル化の功罪—東南アジアを事例として、セッションB4「21世紀の人間の安全保障」の課題—東南アジアを事例として	2019年11月	国際開発学会・人間の安全保障学会2019年度共催大会、於東京大学駒場キャンパス	
61	足立研幾	Consequence of Norm Localization: Achievements and Challenges of Localized Human Security in Southeast Asia	2020年1月	Indonesia University	
62	足立研幾	Viscosity of Norms: Why Doesn't the Nuclear Non-Proliferation Norm Disappear?	2020年3月	International Studies Association Annual Conference, Honolulu, Hawaii, USA	
63	足立研幾	Globalizing the Concept of Security Governance: Incorporating the Non-Western Cases	2020年3月	International Studies Association Annual Conference, Honolulu, Hawaii, USA	
64	池端落子	宗教間対話の新しい国際戦略—イスラーム諸国と国連の場合—	2019年5月	日本中東学会第35回年次大会、秋田大学	
65	池端落子	Collective Ijtihad in Islamic Law as an Instrument for Trans-border Consensus Making: Research Prospects,”	2019年6月	2019年度第5回立命館アジア・日本研究機構「AJI 研究最前線セミナー」	
66	池端落子	“Collective Islamic Legal Reasoning for Contemporary Economic Issues: A Case of Common Norm Creation in the Islamic World”	2019年9月	13th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics and Finance, Kyoto	
67	池端落子	“Collective Islamic Legal Decisions on Contemporary Medical Issues: Emerging Common Norms in the Islamic World”	2019年10月	10th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019), Institute of Islam Hadhari, The National University of Malaysia	
68	陳晋	中国製造業競争力の光と影	2019年9月	華人研第134回例会	
69	陳晋	中国製造業競争力の光と影:企業能力蓄積70年のプロセスから観察	2019年10月	第18回中国問題講演会「私は、建国70周年の中国の今をこう見る」	
70	馬場多聞	13世紀の東アフリカ・アデン間交易	2019年12月	第41回立命館史学会大会、立命館大学衣笠キャンパス	
71	馬場多聞	中世イェメンにおける奴隷	2020年1月	2019年度公開セミナー「アラビア半島の歴史・文化・社会」第14回、京大駒場キャンパス	
72	馬場多聞	“The Possibility of Healthy Cassava Seeds Production in Cambodia”	2020年2月	The 11th ICERD conference, Siem Reap	Baba, T. et al.
73	馬場多聞	“Current Status and Future Prospects for Cassava Business in Cambodia: From a Perspective of Distribution Channel”	2020年2月	The 11th ICERD conference, Siem Reap	Ito, K. et al.

74	馬場多聞	“Movement of Cassava Stems and Willingness to pay for Clean Seedlings in Vietnam”	2020年2月	The 11th ICERD conference, Siem Reap	Nguen, N. et al.
75	馬場多聞	“Knowledge, Attitude, and Practice (KAP) Improvements may help Prevent Cassava Mosaic Disease and affect Farmers Willingness to pay for Healthy Seedlings in Dong Nai, Vietnam”	2020年2月	The 11th ICERD conference, Siem Reap	Nomura, H. et al
76	白戸圭一	日本メディアの戦争報道: アフリカの紛争に関する報道の特質について	2019年5月	日本アフリカ学会第56回学術大会(京都精華大学)	
77	本名純	ガバナンスとしての戦争～インドネシアにおける麻薬との戦い」セッションB4「21世紀の人間の安全保障」の課題—東南アジアを事例として	2019年11月	国際開発学会・人間の安全保障学会2019年度共催大会、於東京大学駒場キャンパス	
78	本名純	越境組織犯罪と人権 NGO: 東南アジアにおける人身取引対策をめぐる2つの非国家主体	2019年12月	国際安全保障学会 2019年度年次大会、同志社大学	
79	末近浩太	中東政治の「よりよい理解」に向けて: その方法を再考する	2019年4月	龍谷大学法学部 2019年度第1回政治系合同講演会、龍谷大学	
80	末近浩太	“Social Disorder, Purged Islamist, and Dysfunctional Humanitarian Intervention over the Arab Authoritarianism: The Case of the Muslim Brotherhood Movements in the 2010s,” Panel TB15 “How Authoritarianism Endures”	2019年6月	CEEISA-ISA 2019 Joint International Conference, Belgrade, University of Belgrade, SERBIA	
81	末近浩太	“Diffusion and Convergence of Statehood in Syria under Conflict: The 2017 Social Survey Analysis,” Panel 7E “Exploring New Political Dynamics in the Post-IS Middle East”	2019年6月	The 22nd Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Crete, Rethymon, GREECE	
82	末近浩太	“Reconsidering the State-Convergence Thesis in Syria under Conflict: A Poll Survey Data Analysis,” Panel FD01 “Actors, International Security and Intelligence Education”	2019年8月	ISA International Conference 2019, Accra, University of Ghana, GHANA	
83	末近浩太	「大シリア」における紛争の「記憶」と「安全保障化」のメカニズム: 多層化・多元化する国家構想	2019年8月	科学研究費補助金・基盤研究(B)「紛争地域における「記憶」と「安全保障化」のメカニズム: 「東地中海地域」を事例に」研究会(同志社大学)	
84	末近浩太	中東政治研究におけるイスラーム主義: 逸脱事例・パラドクス・選択・バイアス」日本国際政治学会 2019年度研究大会・分科会 C-3「中東・ポスト IS 期におけるイスラーム主義運動と中東政治	2019年10月	新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ	
85	廣野美和	中国外交における多国間主義と二国間主義: 中国は国連をいつ『使う』のか	2019年6月	日本国際連合学会第21回研究大会、同志社大学	
86	廣野美和	China’s Peacebuilding and Humanitarian Assistance: International Responsibility from Insider Perspectives	2019年7月	International Studies Association in Asia Pacific, Nanyang Technological University	
87	廣野美和	HADR, Peacekeeping and East Asia – cooperation or competition?	2019年7月	International Studies Association in Asia Pacific, Nanyang Technological University	
88	廣野美和	China’s Peacebuilding and Humanitarian Assistance: International Responsibility from Insider Perspectives	2019年7月	International Studies Association in Asia Pacific, Nanyang Technological University	
89	廣野美和	China’s Peacekeeping and Humanitarian Assistance Disaster Relief (HADR)	2019年7月	presented at the ‘East Asia, Humanitarian Assistance and Disaster Relief: supporting regional capacity building and responses’ Workshop, organized by the University of St Andrews, Pathumwan Princess Hotel,	

				Bangkok	
90	廣野美和	Opportunities and Challenges for China's and Japan's engagements in the Maldives	2019年10月	早稲田大学セミナー「一帯一路とFOIP: インド洋の要衝モルジブをめぐる日中協力と競争」、早稲田大学	
91	廣野美和	紛争地における中国の役割の拡大—南スーダンコミュニティの視点と変容する国際秩序への意味合い	2019年10月	日本国際政治学会、新潟	
92	廣野美和	China's Military Presence in Africa	2019年11月	Konrad Adenauer Stiftung international conference 'Changing the World Order? China's Long-Term Global Strategy', Manila	
93	廣野美和	国際関係学の問題意識と方法論の視点から『国書がむすぶ外交』を考える	2019年12月	東京大学 HMC セミナー特別回「社会科学と人文学の対話——『国書がむすぶ外交』総論」を素材に、東京大学伊藤国際学術研究センター	
94	廣野美和	一帯一路構想研究の現状と課題: グローバルな視点から	2020年1月	「中国の一帯一路」構想と中央アジア諸国における国民感情の考察・研究会、東京大学東洋文化研究所	
95	廣野美和	Backlash against China?: General elections in the Maldives and Malaysia and its implication for the international order	2020年3月	the US-Japan Institute Japan Week, USJI Office, Washington DC	
96	竇少杰	中国製造企業の労使関係の真実	2019年5月	華人研第136回例会	
97	竇少杰	為尋求新的相遇: 300年老舗松栄堂和美濃吉的案例(新しい出会いを求めて: 300年老舗松栄堂と美濃吉のイノベーション)	2019年8月	第七屆中日企業接班傳承研討會(7回目中日企業事業承継フォーラム)	
98	竇少杰	中国企業の労使関係の変容	2019年10月	第18回中国問題講演会	
99	竇少杰	日本老舗家族企業の「常」と「変」(日本老舗家族企業的「常」与「變」)	2019年10月	第三回フォーブス中国保険大会	
100	竇少杰	世代間のコミュニケーション問題は事業承継の最重要問題の一つ(兩代人的溝通問題是家族企業傳承的大問題)	2019年11月	2019第六回中国家族企業傳承主題フォーラム	
101	竇少杰	日本の老舗企業の事業承継から学べることは(日本老舗企業給我們帶來的啓示)	2019年12月	2019家業長青接班学院企業家家人会	
102	竇少杰	世界最古企業の倒産から語る家族企業の事業承継(從世界最古老家族企業的功敗垂成談起)	2019年12月	招商銀行プライベートバンク(昆明)家族財産管理フォーラム	
103	竇少杰	アメーバ経営と経営フィロソフィの実践における日中比較研究	2020年2月	2019年度稻盛経営哲学研究センター研究成果報告会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	石油が引き起こす呪い	恒心館 KS202	2019年4月	40名	科学研究費助成事業(新学術領域研究)計画研究 B02「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
2	日米中政治経済研究会・産業社会学部共同研究会	学而館研究会室2	2019年4月	20名	立命館大学地域健康社会学研究センター
3	第1回中国語圏地域人文学研究会「三毛と20世紀の中国」「清代の官僚名簿とそれが結ぶ近代世界」	衣笠キャンパス	2019年5月	15名	
4	写真と映像で伝えるイラクのヤズディ教徒(ISによる迫害と現状)	創思館カンファレンスルーム	2019年5月	110名	
5	Designing Grand Strategy for Reiwa Japan	恒心館 KS306	2019年5月	45名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間

					の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
6	Civilizations and World Order	恒心館 KS306	2019年5月	50名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
7	第68回日米中政治経済研究会	衣笠キャンパス	2019年6月	15名	
8	Accountability in Humanitarian Aid	恒心館 KS306	2019年6月	45名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
9	Getting Legitimate? Implications of the Transforming Informal Actors	恒心館 KS202	2019年6月	18名	国際関係学部・研究会委員会
10	Japan's Public Diplomacy in the 1970s: Rebuilding Japan's Image in Southeast Asia	恒心館 KS306	2019年6月	37名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
11	資源と環境にみる内陸国の安全保障	朱雀キャンパス3階307教室	2019年8月	42名	内陸国研究会
12	国際シンポジウム アフガニスタン過去、現在、未来	衣笠キャンパス	2019年10月	100名	国際協力機構、立命館大学国際関係学部
13	緊急学術シンポジウム「東アジアの平和にとって香港とは何か」	大阪いばらきキャンパス	2019年10月	76名	
14	同志文学の歴史と未来—台湾を例にして	衣笠キャンパス	2019年10月	80名	国際言語文化研究所
15	第69回日米中政治経済研究会	衣笠キャンパス	2019年10月	15名	
16	中東における石油と国際政治	恒心館 KS202	2019年10月	41名	科学研究費助成事業(新学術領域研究)計画研究 B02「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
17	Islam in France and Europe: a presence that worries public opinion and questions traditional identities	恒心館 KS306	2019年10月	40名	中東・イスラーム研究センター、科研費基盤 B「ヨーロッパの世俗的・宗教的アイデンティティの行方: 政教関係の学際的比較研究」、科研費計画研究 B02「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
18	アフガニスタンの過去、現在、未来～持続可能な平和を目指して～	創思館 1F カンファレンスルーム	2019年10月	100名	JICA、国際関係研究科・国際関係学部
19	Lessons from Fledgling Researcher-How to Dealt with Failures	恒心館 KS306	2019年10月	35名	科学研究費助成事業(新学術領域研究)計画研究 B02「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
20	東アジアの平和にとって香港とは何か—香港の若者たちの運動は世界をどのように変えるか—	OIC B棟2階 B275・276教室	2019年10月	80名	
21	同志文学の歴史と未来—台湾を例にして	平井記念図書館カンファレンスルーム	2019年10月	30名	
22	第70回日米中政治経済研究会	衣笠キャンパス	2019年11月	15名	
23	新時代の中東・イスラーム研究を拓く	以学館2号ホール	2019年11月	160名	中東・イスラーム研究センター、アジア・日本研究所
24	Do We Really Know Trump? This is How Japanese Mainstream Media Spread Untrue Stories	恒心館 KS306	2019年11月	41名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
25	Managing Reputation for Organizational Survival: Cases of Initial Involvement by the UNHCR in Issues on Internally Displaced Persons	恒心館 KS306	2019年11月	45名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
26	Workshop "Contemporary Labor Migration to Japan: Recruitment, Employment, Policy and Settlement Issues"	究論館プレゼンテーションルーム A, B	2019年11月	25名	
27	一帯一路の政治経済学	末川記念会館第3研究室	2019年11月	20名	

28	International Workshop for Young Africanists (Institute of International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University)	衣笠キャンパス	2019年12月	20名	Center for African Area Studies, Kyoto University, Hankuk University of Foreign Studies (韓国)
29	第71回日米中政治経済研究会	衣笠キャンパス	2019年12月	15名	
30	Methodological challenges of doing research in highly politicized regions	恒心館 KS306	2019年12月	47名	Graduate School of International Relations, Ritsumeikan Univ., ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト、「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」
31	紛争を生きる—ジャーナリストが見た戦時下の中東—	京都経済センター	2020年1月	82名	中東・イスラーム研究センター、科研費新学術(未近) 16H06550
32	現代イスラーム世界を眺望する—研究の最前線—	衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム	2020年1月	40名	国際地域研究所、アジア・日本研究所、科研費基A(小杉)、基B(横田)、基B(未近)、新学術領域研究(未近)

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	円城由美子	紛争後社会の平和構築とジェンダーの平等	青山学院大学 SDGs 関連研究制度セミナー「紛争影響地におけるSDGs16と社会・経済的課題との架橋: 中東の事例から」	2020年1月28日
2	黒田彩加	【研究手帖】中東の近代化を問いなおす思想家たち	『現代思想』, 青土社, 2019年10月号, p. 246	2019年10月号
3	小杉泰	(書評) Ibn Battuta and His Journeys to the Border Regions: New Studies on Rihla Ibn Battuta by Hikoichi YAJIMA, Nagoya: Nagoya University Press, 2017	Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University, pp.106-109 ONLINE ISSN 2435-0192, PRINT ISSN 2435-0184	2019年7月
4	足立研幾	日本は、今再び「人間の安全保障」実現に向けた取り組み強化を	一般社団法人 平和・安全保障研究所	2019年8月
5	池端路子	(ゲストスピーカー)	立命館大学(琵琶湖草津キャンパス)における授業「戦争の歴史と現在」において	2019年4月26日
6	池端路子	現代ヨルダン王家の宗教戦略	立命館大学(衣笠キャンパス)における「ライスボールセミナー」	2019年6月11日
7	鳥山純子	共同研究会 国立民族学博物館「個—世界論—中東から広がる移動と遭遇のダイナミズム」		2015年10月~2020年9月
8	鳥山純子	ムスリムの日常、あるいはイスラームのある日常—あるエジプトの家族の話—	日本中東学会第25回公開講演会「素顔の中東・イスラーム」 於山口市民会館	2019年11月
9	鳥山純子	講演会「紛争を生きる ジャーナリストが見た戦時下の中東」司会	京都経済センター第会議室 6-C	2020年1月
10	鳥山純子	Column #10 中東北アフリカにおける児童婚が考えさせるもの	イスラーム映画祭 Archive 2015-2020 50FILMS	2020年3月
11	嶋田晴行	アフガン支援着実に続けて	京都新聞	2019年12月
12	嶋田晴行	中村哲医師殺害事件に関するコメント	共同通信社インタビュー(京都新聞、北海道新聞、高知新聞などへ掲載)	2019年12月
13	嶋田晴行	(投稿)	日経新聞 経済教室欄 私見卓見	2019年12月5日
14	嶋田晴行	アフガン支援着実に続けて	京都新聞	2019年12月5日
15	嶋田晴行	「アフガンへ関心持ち続けて」私見卓見	日本経済新聞	2020年1月
16	本名純	「メラブティ」政界エリートの思惑	じゃかるた新聞	2019年4月
17	本名純	大統領選挙	じゃかるた新聞	2019年4月
18	本名純	社会分断は一層深化 本名純教授 選挙結果受け講演	じゃかるた新聞	2019年4月
19	本名純	インドネシア大統領、再選へ「外資受け入れが課題に」	日本経済新聞電子版	2019年4月
20	本名純	インドネシア議会選で与党が過半数見通し	朝日新聞	2019年4月
21	本名純	Jokowi's election win sets up Indonesia political free-for-all	Nikkei Asian Review	2019年4月

23	末近浩太	「開国」か「攘夷」か 中東の葛藤(大同生命地域研究奨励賞 末近浩太・立命館大教授講演)	『読売新聞』大阪版夕刊文化面	2019年4月25日
24	末近浩太	「イスラームとは何か」兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	阪神シニアカレッジ	2019年5月7日
25	末近浩太	「中東における「宗教と政治」」兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	阪神シニアカレッジ	2019年5月7日
26	末近浩太	「激動の中東情勢を読む」兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	阪神シニアカレッジ	2019年5月17日
27	末近浩太	「イスラーム主義の挑戦」兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	阪神シニアカレッジ	2019年5月17日
28	末近浩太	ムスリムにとって信仰は「空気」、礼拝は「歯磨き」と同じ？	shiRUto (立命館大学 web 広報誌) https://shiruto.jp/global/1205/	2019年5月31日
29	末近浩太	「タンカー攻撃で米、イラン真っ向対立 首相訪問中、政府は困惑」(ホルムズ海峡でのタンカー攻撃事件に関して)	『毎日新聞』総合面	2019年6月15日
30	末近浩太	中東と日本(現代のことば)	『京都新聞』夕刊, 1面	2019年7月11日
31	末近浩太	クレタ島の過去と今(現代のことば)	『京都新聞』夕刊, 1面	2019年9月11日
32	末近浩太	「偉人伝」の野口英世(現代のことば)	『京都新聞』夕刊, 1面	2019年11月1日
33	末近浩太	バンコクのムスリム街(現代のことば)	京都新聞	2019年11月
34	末近浩太	「中東・イスラーム研究」とは何か: 地域研究からの新たな挑戦」立命館大学中東・イスラーム研究センター設置記念講演会「新時代の中東・イスラーム研究を拓く: 国際研究教育拠点設置の意義と抱負	立命館大学	2019年11月4日
35	末近浩太	「宗教と政治の関係をどう捉えるか: 「幕末」としての中東現代史」立命館西園寺塾2019年度梅原文明コース	立命館東京キャンパス	2019年12月7日
36	末近浩太	バンコクのムスリム街(現代のことば)	『京都新聞』夕刊, 1面	2020年1月7日
37	末近浩太	コメント(イランによるイラク米軍施設攻撃について)	関西テレビ「報道ランナー」	2020年1月8日
38	末近浩太	過激思想の拡散(現代のことば)	『京都新聞』夕刊, 1面	2020年3月3日
39	廣野美和	『一帯一路』構想と世界秩序	立命館大学土曜講座	2019年7月27日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	黒田彩加	Hadhari Global Network	イスラーム文明研究ハダリー賞	『イスラーム中道派の構想力: 現代エジプトの社会・政治変動のなかで』(ナカニシヤ出版, 2019年2月)に対して	2019年10月
2	廣野美和	ソロプチミスト財団	女性研究者賞	アジアにおける現地主導の災害対策・現地主導の災害対策はなぜ成功するのか」のプロジェクトに関して	2019年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	角本和理	不法行為法における『違法性』要件の意義再考: AI時代の到来を契機として	科研費若手研究	令和2年度	令和5年度	代表
2	君島東彦	憲法平和訴訟の国際比較研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
3	黒田彩加	グローバル・イスラームの国際連携: 過激派に對峙する新思想家群	特別研究員奨励費	2017年4月	2020年3月	代表

4	小杉泰	現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向: 過激派と対峙する主流派	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	代表
5	松田正彦	「脱農業化」する東南アジアに求められる熱帯農業理論の構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	代表
6	足立研幾	セキュリティ・ガバナンス概念の再検討	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
7	池端落子	現代イスラーム世界の分断と統合: グローバル法学における合意形成と宗派対立の克服	特別研究員奨励費	2019年4月	2022年3月	代表
8	中川涼司	中国多国籍企業の発展の現段階と中所得国多国籍企業論	基盤研究(C)	2018年4月	2020年3月	代表
9	嶋田晴行	「難民」問題と援助の関係性: アフガニスタン人を例に	若手研究	2019年4月	2021年3月	代表
10	末近浩太	超越的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争	新学術領域研究	2016年4月	2021年3月	代表
11	末近浩太	計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	代表
12	廣野美和	中国の国際紛争における役割: 『不介入主義』の現実	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
13	竇少杰	家族企業の事業承継問題に関する日中台の国際比較研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
なし						

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
なし								